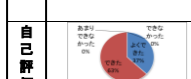
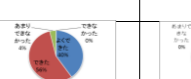
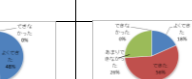
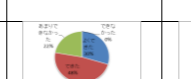

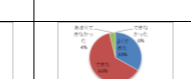
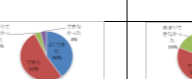

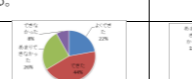
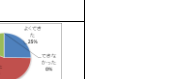



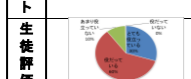
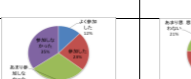

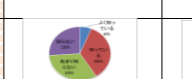
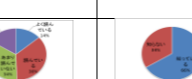
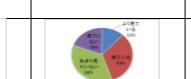
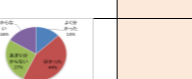




平成27年度 兵庫県立青雲高等学校 学校評価シート

評価の項目	開かれた学校づくり		生徒指導					進路指導					教職員の資質向上	
	家庭や地域の人々への情報発信		生徒指導方針の確認と指導体制の推進			生徒の内面の理解を図る指導の工夫		進路指導体制の充実			職業観・勤労観の育成と進路意識の向上		実践的指導力の向上	計画性を持った研修の実施
実践目標	「学校ホームページ」や「青雲通信」などの定期的な発行物の充実を図り、学校・家庭・地域との連携を円滑に進める。	オープンハイスクールや保護者授業参観、学校行事や地域貢献事業などを通じて、家庭・地域との連携を深め、本校教育活動の理解と協力を得る。	安全な学校、より健全な学校の創出を目指し、校門立寄りや校内巡回の徹底、関係機関との連携、校内全面禁煙の定着等を進める。	生徒の学校行事への積極的な関わりや参加の増加のための施策を研究・工夫し、幅員意識の涵養を図る。	各学年行事の内容を工夫し、生徒が地域に関わり、貢献できる機会を増やす。	「教育相談」と特別支援教育の委員会が1つになったことで、相談窓口が1つになりワンストップでのスムーズな対応が可能となっている。	「相談室だより」や教育相談に関する掲示物、学校HP等を通じて、カウンセラー情報の広報に努める。	定期発送で「進路のしおり」を郵送するとともに、各種説明会等にて情報の提供に努める。	進路指導部と担任が情報共有しながら、協力して生徒の進路実現を支援する。	関係機関と連携して、インターンシップを実施し、生徒の進路意識を高める。	正規就労の意味や大切さ、就労のしかた等を中心に理解させ、生徒の就業への意識を高める。	スクリーニング時において、学校評議員による授業参観を実施する。また、生徒の状況把握も兼ねて、管理職を含む多数の教員が授業教室を適時巡回する。	当面する諸課題に対し、各分室が全教職員対象の研修会を企画し、計画的に実施する。	
自己評価														
成果	3.45 (昨年度3.90)	3.45 (昨年度4.20)	3.56 (昨年度4.09)	2.99 (昨年度3.45)	3.14 (昨年度3.56)	3.30 (昨年度3.98)	3.11 (昨年度3.83)	3.37 (昨年度4.02)	3.37 (昨年度3.56)	3.18 (昨年度3.48)	3.37 (昨年度3.67)	2.88 (昨年度3.64)	3.14 (昨年度3.79)	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学年初より、学統通信等の定期発送物や「青雲通信」などで生徒・家庭に必要な情報や学校の行事や生徒の様子を継続的に発信した。 ・学校ホームページは内容を常に更新し最新情報の発信に力掛けた。本校のホームページは分かり易いと感じてもらった。 ・今年度は創立50周年記念事業のため、記念誌を刊行し、これからの新たな歴史に向けた情報発信ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から保護者授業参観やオープンハイスクールと別日程で実施し、より保護者の要望にお応えできる態勢になっている。 ・参加者も増加した。 ・オープンハイスクールでは、中学生とその保護者などに通信制高校に対する理解や認識を深めていく機会を得た。 ・今年度は創立50周年記念事業のため、記念誌を刊行し、これからの新たな歴史に向けた情報発信ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて校内での目立った問題行動等はなかった。 ・校内で喫煙している生徒を注意したという事例もなかった。 ・トイレに散敷が落ちていたのが複数発見された。 ・また、生徒を迎えに来た自動車や校門前付近に長時間に亘って駐車し、近隣の住民に迷惑をかけた。警察から注意を受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・春の交流会は、日面、月面とも例年と同じ穏やかな天候に恵まれた。文化祭も天候に恵まれ、来場者も多く、アンケートの結果を見ると近年では最長の盛り上がりを見せた内容であった。多くの生徒や来訪者が心地よい満足感を得られたようである。 ・特に中心な役割を担った生徒会執行部の生徒連や、各クラブ各クラス企画に係った生徒連は心地よい充実感や達成感を味わったと思われる。 ・秋の運動会は晴天に恵まれ、参加者は秋の京都を満喫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年に3回、学校周辺の清掃作業を行う青雲クラブ活動は、地域貢献事業として定着した感があり、要領を熟知しており活動の中心である生徒会執行部のメンバーは、他の参加生徒をよくリードできるようになっている。 ・一般生徒の参加も増えてきており、執行部のメンバーと交流することで、次年度の生徒連や、各クラブ各クラス企画に係った生徒連は心地よい充実感や達成感を味わったと思われる。 ・秋の運動会は晴天に恵まれ、参加者は秋の京都を満喫した。 	<ul style="list-style-type: none"> 「教育相談」と特別支援教育の委員会が1つになったことで、相談窓口が1つになりワンストップでのスムーズな対応が可能となっている。 また、カウンセラーに「臨床心理士」と「ソーシャルワーカー」の両方があることにより、心理面・生活面・福祉面など幅広い観点からの情報提供や相談ができ、多角的に生徒理解を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間4回「相談室だより」を発行して、カウンセラーの実施日程を知らせるとともに、「カウンセラーのお知らせ」や「カウンセラーの活動」など掲載し、生徒にとっても身近なものとなるよう工夫した。 また、相談室前に「予約状況」を掲示し、当日のカウンセラーにより空きが生じた場合もすぐに空きが生じたようにした。 また、相談室前に「予約状況」を掲示して予約状況の確認がいつでもできるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 入学説明会参加者53名、就職説明会参加者22名、進学セミナー参加者34名、就職セミナー参加者10名であった。 特に進学セミナーへの参加者（次年度以降卒業予定者対象）が増え、卒業後の進路を意識して学校生活を送る生徒の増加がうかがわれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 入試出願、学校紹介就職など担任と進路指導部が連携して、滞りなく行うことができた。 また、説明会、セミナーへの参加者は「担任からの勧め」を参加の動機に挙げている割合が高かった。 また、「参加生地のほか、意識が高かった」とアンケート回答でも、生徒の進路意識を高める支援ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ハローワーク体験ツアーは、台風のため中止を余儀なくされた（参加予定3名）、トキメキ仕事体験（1）や「カレッジは、3名の生徒が参加を希望（保育体験2名、調理体験1名）したが、保育体験は希望者多数のため、参加できなかった。 内、1名は動物飼育体験に参加した。 調理希望者は、当日勤務が入ったため、参加できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度以降卒業生対象の「就職セミナー」を実施したが、参加生徒の熱意を感じた。 ハローワークやジョブサポーターとの連携も今まで以上に進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評議員による授業参観は日程の都合により、今年度も実施できなかった。 しかし、管理職による授業参観の巡回は昨年度より多く実施できた。 スクリーニングは昨年度よりも更なる落ち着いた雰囲気での授業が展開されている。 生徒たちも真剣な眼差しで授業プリントを見つめ、勉学に励む姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の実情や課題を検証し、各担当が研修会を計画的に実施した。 その結果、全教員及び事務職員が参加し、有意義な研修会となった。 また、外部の教育相談機関と連携し、生徒の直面する問題等について、意見交換を行ったり、職員研修会に外部機関のスタッフを講師として招き、生徒の支援について具体的な支援事例をもとにした話を聞くことができた。 このような取組を重ね、教員の意識が更に高まった。 	
生徒アンケート	「青雲通信」などの定期的な発行物や学校HPは役立っていますか。	学校行事や文化祭・クレーター作戦などに参加しましたか。	禁煙指導や校内巡回を通して安全な学校づくりが進められていると思いますか。					キャンパスカウンセラーがいろいろな相談にのってくれていることを知っていますか。	※2～4年次生への質問です。「進路のしおり」を読んでいますか。	青雲高校に「進路指導室」があることを知っていますか。	※2～4年次生への質問です。「進路のしおり」を読んでいますか。案内を見ていますか。	※2～4年次生への質問です。「進路のしおり」を読んでいますか。案内を見ていますか。		
生徒評価														
(成果)	3.92 (昨年度3.91)	2.22 (昨年度2.13)	3.42 (昨年度3.57)				2.65 (昨年度2.78)	2.36 (昨年度2.76)	4.58 (昨年度4.55)	2.50 (昨年度2.09)	2.78 (昨年度2.90)			
学校関係者	定期的な発行物や学校HP、各種の行事などを通して家庭や地域との連携を深めていますか。		安全で楽しい学校生活を送ることのできる環境づくりが進んでいると思いますか。											
評価	<ul style="list-style-type: none"> 「青雲通信」ホームページでの自己評価、生徒評価はともに高く、クレーター作戦など地域との連携を深めている。 授業参観の取り組みは着実に成果をあげている。 家庭・地域との連携に努められているのは評価できるが、生徒自身が学校行事等への参加が少ないのは残念。 今後、開催方法の工夫が必要かもしれない。 ・生徒の年齢や職業、家族構成等に広大な幅があり、全体への対応は難しいと思いますが、よく工夫されたいと思います。 ・「青雲通信」は毎回立派なもので、読みやすくてよかった。 ・「青雲通信」は学校の様子や生徒の活動の様子がよく分かります。 ・50周年記念式典の駐車は一面トップのほうよかったと思います。 ・中面を持って来たのは、もったいない感じがしました。 ・オープンハイスクールは本校の教育活動を広く理解していただくことができます。 ・保護者授業参観は家庭にも、生徒の取り組みを見せ、頑張っている姿が伝わると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクリーニング時、ビデオにはいつも先生がしゃべって下さり、安心して学校生活を送ることが出来ます。 ・学校行事は王子動物園や京都へのバス旅行など、とても楽しい企画で、生徒たちには楽しんでいるように思っています。 ・学校として役割も役割も役立っています。 ・学校の安全や健全を目指している姿勢には頭が下がります。 ・より多くの生徒の参加を願っての研究や工夫はされていますが、昨年度よりも評価が低いのが気になります。 ・禁煙指導は成人の方がいっしょで難しいと思いますが、生徒が煙草を断てるような多角的な工夫も必要だと思います。 ・また、生徒連のコミュニケーションの場として校内でのサーイドプレス（居場所）を作るなど、ストレスを減らす工夫も必要だと思います。 ・学校の特性から見ても、難しい課題だと思いますが、努力されていると思います。 ・ただし、保安上の問題は、場合によっては毅然とした対応が必要であり、緊急時の避難方法等はHP時の長時間に亘り、繰り返し生徒に伝えるべきだと思います。 ・生徒からの満足度も高く、環境づくりが進んでいると評価できます。 ・安全で安心して通学し、学べる環境づくりへの教職員の粘り強い取り組み姿勢は生徒評価の結果のように成果を大きく上げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価が高いことには、支援する努力が十分にされていることを示している。 ・困難な課題である「引き継ぎ広報」がうまくいっていない。 ・キャンパスカウンセラーがいろいろな相談にのってくれていることを生徒に理解してもらう必要があると思います。 ・よく努力されていると思います。 ・ただし、生徒アンケートの「キャンパスカウンセラー」がいろいろな相談にのってくれていることを知っていますか。の問への回答結果が更に改善され、カウンセラーの存在が広く周知され、活かされる事を期待します。 ・生徒の内面を理解することは、限られた時間の中ではとても難しいと思われ。また、キャンパスカウンセラーが相談にのってくれることを知らない生徒が多い（指導が必要ないとおもっているのか？）けれど、担任とか教員の先生方がそれだけ生徒との関わり、コミュニケーションをとれているのではないかと、と思います。 ・努力されていると思います。 ・卒業式に出席して、生徒さんの表情が気になりました。 ・晴れ晴れとして披露の人、つなびかけしてがんばっている人など様々でした。 ・キャンパスカウンセラーの支援は必要です。 ・自己肯定感を育み、自身を持って生きていけるように学校がお手伝いしてほしいです。 											
	今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ・「青雲通信」の内容をさらに充実させたい。 ・生徒や保護者など、青雲高校に対する理解をより深めたい。 ・現在オープンハイスクールが年一回、1日だけの開催なので、今後は回数を増やして広報活動より活発に行っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年次生保護者会の参加者がまだ少ない状況であるので、ポスターや配布物等での注意喚起を継続して、警戒との連携も密にする。 今年度は特に問題にならなかつたが、外部の者を学校に連れて来る件については、入学式、始業式等で引き続き注意喚起を徹底する必要がある。 また、問題行動については、各年次と連絡を密にし、連携して生徒の指導に当たる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の取り組みを検証し、来年度以降に生かすことができる方策や、対応の仕方等をできる限り計画の段階から要項等に織り込むようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き安全面での配慮を怠らず、学校周辺地域の清掃活動を恒例行事として位置づけ、生徒会執行部以外の生徒の参加者が増加するよう、広報活動を活発に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒理解のために、カウンセラーを活用した教職員全体の研修会の実施以外に「ワーキング」の事後報告や「ストレスチェック」など生徒の興味・関心が高まる内容を掲載し、生徒にとってカウンセラーが身近なものとなるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「相談室だより」でカウンセラーが実施するプログラムや「ワーキング」の内容などをお知らせしたい。 また、「ワーキング」の事後報告や「ストレスチェック」など生徒の興味・関心が高まる内容を掲載し、生徒にとってカウンセラーが身近なものとなるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 進学・就職をめぐる社会情勢は日々刻々と変化している。 担任とその他の動きを共有しながら、生徒の進路実現を支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ハローワーク体験ツアーは7月以外の日程の設定は困難。 トキメキ仕事体験については、希望が叶わなかったため、希望が叶わなかったという生徒の数は多い。 また、スクリーニングの競合により、希望が叶わなかったという生徒の数は多い。 また、スクリーニングの競合により、希望が叶わなかったという生徒の数は多い。 また、スクリーニングの競合により、希望が叶わなかったという生徒の数は多い。 	<ul style="list-style-type: none"> フリーター志向の生徒、進路未定のまま卒業する生徒が依然多数を占めていることは、進路指導上の大きな課題である。 進学・就職など、高校卒業後の自分をイメージさせていくように、粘り強く指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 月2回のスクリーニングのため、教師同士が互いの授業を見学しあう時間の確保が難しい。 そのため、各担当に教育相談や特別支援教育に関する教職員の資質の向上を目指し、生徒理解が深められるよう、更なる研修会の企画を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の更なる多様化に伴い、今後益々外部機関との連携が必要になると考えられる。 そのことを念頭に教育相談や特別支援教育に関する教職員の資質の向上を目指し、生徒理解が深められるよう、更なる研修会の企画を行っていく。 		

平成27年度 兵庫県立青雲高等学校 学校評価シート

評価の観点	危機管理体制の整備				基礎・基本の定着		事務部と教職員との連携		安全・健康教育		人権教育		新しい通信制教育		
評価項目	実効ある学校マニュアルの策定	家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の構築	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	生徒の学力の把握と評価基準の設定	事務部と教職員との連携による生徒支援の充実	事務部と教職員との連携	事務部と教職員との連携	事故防止の工夫と救急処置の対応力を高める	健康に関する認識を高める取組み	人権教育推進体制への取組	インターネットの活用による新しい通信制教育の実現				
実践目標	本校の実情に応じた危機管理マニュアルを作成する。	通信制高校に合った家庭・地域・関係機関との連携体制を検討・工夫し、防災に対する教職員の安全対応能力の向上を図るための取組みを行う。	災害発生時に生徒的・家庭的に判断でき、安全な初期行動がとれるように、防災管理組織と実際の任務についての確認を行う。	防災マニュアルの策定や交通安全に関する研修会の開催等により、自他の生命を尊重する意識を高め、より具体的な事例をもとにしたHR指導が行えるようにする。	本校の実情に合わせた基礎学力の定着を目指す学校設定科目を設け、上位科目の学習につなげる。	事務部と教職員が連携し、環境への配慮をしながら教育活動を進める。	受講料や学校徴収金の徴収をはじめ、レポート・定期発送の受け取りや各務の事務手続きについて事務部と教職員の連携を密にし、生徒の学習が順調に進むよう支援する。	安全点検を定期的に行い、救急処置などの安全教育の研修会を実施する。	健康診断の受診率を高め、事後指導の徹底を図るとともに、保健室利用者への丁寧な対応に努める。	長期的な視野に立ち、4年間を見据えた人権学習を進める。	多様な生徒が在籍する現状を踏まえ、各部・各教科と緊密な関係をとり、生徒一人ひとりを大切にする人権教育推進体制を構築する。	Seiun Web Schoolや青雲eラーニングを使い、生徒の学習支援を進める。			
自己評価															
成果	2.80(昨年度3.60)	2.84(昨年度3.37)	2.88(昨年度3.33)	2.77(昨年度3.37)	3.30(昨年度3.86)			3.26(昨年度3.75)	3.41(昨年度3.94)	3.26(昨年度3.94)	3.30(昨年度4.02)	3.26(昨年度3.94)	3.11(昨年度3.79)	3.14(昨年度3.90)	
成果	本校の実情にあったマニュアルが作成されて今年度で4年目を迎えた。通信制は毎日生徒が学校で生活することがないので、スクーリング時での緊急事態に備えたマニュアルを生かせるかが課題であるが、職員研修等を通じて、職員の意識が高まった。	関係機関との連携については体制はしっかりとできているが、生徒が毎日登校しないので、家庭や地域との連携による危機管理体制については課題が多い。やはり家庭や地域との繋がりが希薄になりがちなので、説明し、災害発生時の避難について確認を行った。ホームルーム欠席者には、「避難時の注意」プリントを定期発送に同封して通知した。また、9月に本校舎に移転のため、新たな本校舎の見取り図を作成し、生徒に周知し、安全の確保を行った。	今年度も年度当初は仮設校舎での学校運営のため、新たな防災管理組織とその任務を全職員で確認し合った。また、今年度最初のホームルームで「避難時の注意」のプリントを使用して生徒に説明し、災害発生時の避難について確認を行った。ホームルーム欠席者には、「避難時の注意」プリントを定期発送に同封して通知した。また、9月に本校舎に移転のため、新たな本校舎の見取り図を作成し、生徒に周知し、安全の確保を行った。	今年度も、交通安全に關しては、薬物防止とスマートフォンに係るネット被害に重点を置いた。長田警察、スマートフォンから講師を招聘し、HRにて生徒向けの、研修会を実施した。現代の若者が陥りやすい薬物被害やネット被害の実態について、命の大切さと親点からも、より現実的に自分を守る上で、大切な知識を得ることができた。	年々多様化する生徒の基礎学力の定着を目指す入門科目を実施しているが、更なる生徒の実態に合わせた、レポートの活用、解答方法、テスト問題などの内容に検討を加えている。新教育課程への移行も順調に進んでいる。レポート内容の検討も各教科が意欲的に進められており、充実してきているが、今後更なる生徒の多様化ととらえているため、自己評価のポイントが下がったと考える。	昨年年度に引き続き、空調機の異設定温度の遵守、デマンド警報発令時の節電、印刷部数の削減による排紙の削減、環境利用の促進等、境界行動計画の全庁目標達成に向けて職員一同で取り組めた。また、草花のプランターを校内に設置し、よりよい学校環境づくりを行った。	今年度も事務部だけでなく事務部の職員も交代で職員会議に出席した。これにより、各部からの報告・依頼事項を直接開けるようになり、学校の情勢について一層理解が深められるとともに、審議に校務運営に参画できるようになった。膨大なレポートを教員担当に渡したり、生徒に教員が連携してこなすことができた。	27年度は仮設校舎から本校舎への引っ越しがあり、毎月の安全点検には細心の注意を払った。その結果良好な学習環境の整備ができた。不良高所に対しては事務室が迅速に対応し、不適箇所の整備が行えた。また、全職員が人工呼吸器用携帯マスクを携帯し、万が一のための救急処置が取れるように努めている。	5月実施の健康診断は、昨年度に比べてどの年次も受診率が増加し、協力校の尿検査受診率は半数を超えた。今年度も胸部レントゲン問接撮影に関しては、1年次生以外にも自費による受診機会を設け、若年者減少にはあるが未受診者減少に努めた。健康診断終了後には、個別に治療勧告を行った。また、「保健だより」を通じて、生徒の健康への関心を高め、保健室利用の生徒に対しては、丁寧な対応に努めた。	人権学習においては、長期的な視野に立ち、4年間を見据えた人権学習を進めるために、過去3年間の実施内容を考慮して、「働く私たちの人権を守ろう」をテーマに選んだ。人権ホームルームは、4コマ漫画も取り入れたクイズ形式で、アルパイトの貸金や権利などを取り上げ、本校生徒にとっても興味・関心の持てる内容であった。	生徒一人一人を大切にする人権教育の推進体制を構築するために、人権学習推進委員会および職員人権研修会を実施している。さらに、教育相談・特別支援教育委員会の職員研修会や職員会議などと連携し、職員の人権感覚の向上に努めている。	インターネットへの接続環境が、スマートフォン・携帯電話なども含めて、多くの生徒にとって一般的になつてきた。生徒アンケートの評価で7割を超える肯定的回答が見られることから、支援の場としてのインターネット活用の必要性が高まっていることがわかる。また、生徒の放送視聴によるeラーニング等の活用も増え、全体的に利用の幅はますます広がりをみせている。以上から、この方面の環境整備をより高め、継続して取り組んでいきたい。			
生徒アンケート	災害が発生したときの、校内の避難経路を知っていますか。				青雲高校で、どのようにすれば単位が修得できるか、分かりやすいですか。	他の学校にはない、入門科目(英語・数学・社会)があって、学習しやすいと思いませんか。							人権HR(労働者の権利についての正しい知識を持ち、アルパイト先などでの人権侵害に対処できるようにするとともに、自尊感情を高めることを目標とする。)は理解できましたか。	Seiun Web School(インターネット上のRS個人票など)や青雲eラーニングを使いやすいですか。	
生徒評価															
成果	2.21(昨年度2.16)				3.76(昨年度3.78)	3.74(昨年度3.82)							4.46(昨年度3.60)	3.68(昨年度3.45)	
学校関係者					通信制の学習システムを理解させ、基礎基本に戻って生徒の理解を助ける努力がなされていると思いますか。								生徒の学習への興味・関心を高めたり、スクーリング出席時間の不足を補ったりするために、インターネットや情報技術が活用されていると思いますか。		
評価					・中学の学習があまりできていない生徒も多いと思います。入門科目があることは、学校生活をスタートする時に安心してスタートすることができます。基礎基本に戻って学習することは不登校だった生徒が多い青雲高校ではとても大事なことだと思います。入門科目を用いられるなど、努力をされていると思います。生徒にとっても安心して学習できる手立てだと思います。その点に於いて努力されていると思います。・よく努力されているのは勿論、こちらも貴校の一番の魅力ではないでしょうか。自分も経験しましたが、過去に授業について行けなくなって苦手になってしまった科目を、再度基礎から自分のペースで学び直し、理解できれば苦手意識を克服し、更にレベルアップして生徒の可能性が大きく広がると思います。・アンケート結果からも一生懸命努力されていることが窺われます。高く評価できる。学習システムの理解と入門科目は青雲高校で学ぶ上で重要な課題であり、生徒評価の高さは努力の結果が示されています。										・自己評価、生徒評価に高く、さらに今年度より評価が上がるので、通信制高校に就いては自分のふさわしい情報技術の活用が図られている。・評価されていると思う。・よく活用されていると思います。総合的にその機会が増え、その分だけ不足はないと思いますが、情報セキュリティ対策、防犯対策、緊急連絡等の不正利用に対する対応も継続的に留意する必要があると思います。・生徒についても最近になってきているように、また、不足を補うためには有効な方法です。より使いやすくするには、工夫が必要なのかも知れませんが、成果が昨年より見られたことは良かったと思います。スクーリング出席時間の不足を補うことは、学校に来ない生徒への個別指導も考えています。授業だけでなく、各教科の学習をeラーニングを利用することにより、理解が深まると思います。
今後の方策	昨年度の12月より校舎の耐震工事が始まった。27年度7月までは、仮設校舎で学校運営を行っていた。今7月に耐震工事後本校舎に戻った。工事前より本校舎の教室等の配置が変わったため、新たなマニュアル作りに取り組んだ。28年度当初には今までのマニュアルを更に更に本校の実情に合ったマニュアルを作成していきたい。	通信制の実情では、普段から地域との密接な交流を図ることは難しい。今後は職員が地域の防災訓練や行事等に参加するなど、新たな取組を企画し、各機関との連携を高め、生徒の安全意識を高めていくことを検討していきたい。	は月2回のスクーリング時での災害発生・緊急事態を想定し、生徒および教職員の避難がよりスムーズに行えるように努める。	全生徒が一同に会して、研修講座等を企画できない現状がある。各HRでの安全教育の重要性を生徒に更に周知し、より多くの生徒が参加できるようにHRの企画運営の工夫を行ってきたい。	新指導要領の方針を理解し、さらに本校の現状に合った努力を重ね、生徒の学習システムの改善を図り、生徒へのシステム理解に努めたい。さらにそれにつなげていくよう、丁寧な指導に努めたい。	入門科目の意義を再検討し、その利点を更に向上させるために、青雲高校に欠けた部分を補えるようさまざまな可能性を検討し、全体として高校教育内容の充実を努めたい。	本校が環境に影響を与え、その利点を更に向上させるために、青雲高校に欠けた部分を補えるようさまざまな可能性を検討し、全体として高校教育内容の充実を努めたい。	電話や窓口での対応に配慮を必要とする生徒や、介助が必要な生徒についての情報の共有等常に行っているが、今後更なる努力を重ねていきたい。高等学校等就学支援金や高校生等奨学給付金、保健安全関係の給付金、各種奨学金の案内など生徒の学習を支援できる情報を積極的に発信していきたい。	毎月の安全点検により、不適箇所の迅速な整備に努める。	生徒に健康診断の重要性を訴え、受診率のアップに努める。「保健だより」を通じて、予防や予防接種の勧奨に努める。養護教員不在時の保健室利用についても職員の間で共通認識を深め、生徒の保健安全に取り組む。	学習内容についての理解度は高く、4年間を見据えた人権学習の推進についてはおおむね達成されている。今後は、各テーマの知識・理解を深めるだけでなく、人権感覚も高めようとしていくことができるようにしていく必要がある。また、人権ホームルームに出席する生徒数を増やすための対策を考えていく必要がある。	各部、各委員会や各教科との連携という点ではまだ十分とはいえない面がある。職員や生徒が人権尊重の理念について十分な認識を深めていくために、研修会の実施回数や内容などについて連携の強化が必要である。	通信教育を支える基盤となる学習環境の整備については、学校の限られた予算や資源の中での対応になるため課題も多いが、Seiun Web Schoolや青雲eラーニング、ホームルームなどの活用・発展をめざして努力したい。		